

授業モデル【中学校英語科】

くにさき地区中学校外国語教育研究部会

- ◎全体研究テーマ 【「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力等を育む指導と評価の研究】
○部会研究主題 『言語活動の効果的な支援はどうあればよいか～表現力を高める活動を通して～』
・部会スローガン “一人ひとりを大切にするわかる授業・楽しい授業を創り出そう”

1. 教科指導方針・研究課題

- (1) 「すなおに・まじめに」「あせらないこと」「間違ひを恐れないこと」の三原則を基本姿勢とした学習態度の育成・学習規律の定着
- (2) 生徒が、「英語が①読めて②書けて③意味がわかる」一つまり、英語（語彙・連語・語順）に対する抵抗感をなくすための効果的なトレーニング（毎時間の“帯活動”として位置づける）
- (3) 生徒による自律的かつ効果的な家庭学習の定着（授業を充実させるための「予習」・授業を充実させるための「復習」・授業で不足する「活動」を補充）
- (4) 平和・人権・国際理解・環境・福祉などのトピックを扱った教科書教材・資料等の教材研究（身のまわりや国際社会で起こっているさまざまな問題について常に新しい情報を収集する）
- (5) 実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した運用度の高い語、連語、慣用表現および教材の活用(inputからintakeそしてoutputへ、評価の工夫)

2. 具体的な取組・改善のポイント

- (1) 「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランス良く育成するとともに、2技能以上を統合的に活用し、情報や考えなどを的確に理解したり、目的に応じた方法で適切に伝えたりする思考力、判断力、表現力を育成する授業改善をどのように進めるか。
- (2) 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲や態度の育成を含めた具体的な指標形式の目標を設定し、生徒が達成感を得られるよう工夫しているか。
- (3) 技能統合型の活動を通して、生徒が実社会や実生活の中で、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探求し、考え方や気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法や評価を行ったか。

3. 生徒指導の3つの機能を生かした授業づくり

3-i 3つの機能

3-ii 指導者の支援及び留意点（課題解決のための手立て）

① 自己決定の場を与える授業 (自ら課題を見つけそれを追究し、自ら考え、判断し、表現する授業)	<ul style="list-style-type: none">○語彙・連語・語順や文化・情報に対する抵抗感をなくすための視聴覚的効果、ICTの活用○段階的な音読指導、そして音読から暗唱へ○言語活動を行うに当たり、言語の使用場面や言語の働きを明示する○既習事項定着の場としてのリスニング、リーディング
② 自己存在感を与える授業 (生徒一人ひとりに学ぶ楽しさや成就感を味わわせることができる授業)	<ul style="list-style-type: none">○課題が一部の生徒のためではなく全員のためであるよう考慮する○「やさしいことを英語で、難しいことを日本語で」「指示を英語で、説明を日本語で」「身振りとともに」といったことを指導者が意識する○指導者が主導して授業を運営する役割と、脇役に回り授業の支援を行う役割○実践的コミュニケーションの場としてのライティング、スピーキング
③ 共感的人間関係を育む授業 (お互いに認め合い、学び合うことができる授業)	<ul style="list-style-type: none">○ペアや4人班で活動に全員を参加させ助け合い学習の時間を設定する○まとめの作品づくりや発表の機会と場を設定することで、相互のがんばりを認め合う機会を確保する○実践的コミュニケーションの場としてのライティング、スピーキング

4. 家庭学習の定着・充実に向けて

家庭学習で身につけたい3つの力

- ①学習内容；授業で習ったこと（内容）が身についている。
- ②学習方法；家でどう学習すればいいのか、その方法が身についている。
- ③学習習慣；家庭で学習する習慣が身についている。

家庭学習指導の3原則

- ①やり方を「体験」させる。 ②生徒が続ける「仕組み」をつくる。 ③時間をかけて「サポート」する。

家庭学習の材料（例）

予習用 **ジョイフルノート** ～予習を習慣づける～

- ◆教科書で扱う新しい基本文や教科書の単語・連語・本文を整理するためのノート

練習用 **ジョイフルワークブック・エブリディノート** ～出題形式に慣れる～

- ◆単語・連語、選択問題やイラストを使った問題、並べかえ問題や英作文問題などに取り組む

復習用 **補習ノート・語順トレーニング・ペンマンシップ** ～声に出して読みながら書く～

- ◆教科書の基本文を中心に、「読む」「書く」「暗記する」作業を通して英語の文に慣れることを目的とした練習帳（音読筆写）

5. 英語教師の役割

- 学問・技芸を伝え教える教授者(instructor)
- 物事が速く[容易に]はかどるようにうながす促進者(facilitator)
- 両方の間に入って仲立ち[橋渡し]をする媒介者(mediator)
- 教室では学習者の方が教師よりも発話量が多いことが望ましい
- 指示が明確で、学習者が実際に動きやすいようなタスクを豊富に取り入れる
- 教室内をまわりながら必要に応じて側面から手助けをする(supporter)
- 学習の良きパートナー(partner) ○学習を導く指導者(coach / trainer)
- 実際に目標言語である英語を用いて見せるという点では演技者(actor / performer)

6. 英語授業のユニバーサルデザイン

- 生徒の行動を示してから板書する ○見通しをもたせる ○指導内容を細分化する
- 繰り返す ○一緒にやる ○褒める・丸をつける・自信をもたせる ○共感する
- 説明は10秒、30秒、1分 ○時間を指定する ○次の行動を予告する
- チャンクに分ける ○覚える量を減らす ○印象づける ○比較する
- 発問・指示は、セットで扱う ○生徒に選択させる ○1回で教える・短く教える
- 「楽しい！」が一番 ○興味をもたせる（まず！教師が興味をもつ）

7. アクティブラーニング 6つの学習要素

- ①学習スキル …子どもたちが学習を進めるための技能
(調べ方、話合いの仕方、発表の仕方、ノートの取り方など)
- ②学習プロセス …課題解決的な学習を行うための活動系列 (習得→活用→探究)
- ③学習モデル …問題解決や創作表現の支援やヒントとなる、学習の補助輪やお手本、ひな形
- ④学習ツール …思考・判断・表現を助ける道具 (思考ツール、操作ツールなど)
- ⑤学習チーム …学習課題を解決する協働的なグループや班
(学級全員で話合いや一斉検証をするときには、学級全体が学習チームとなる)
- ⑥学習ルール …学習中に子どもたちに守ってほしい授業規範
(姿勢、時間管理、グループでの話合いへの参加、挙手の仕方など)

8. 教科書のレッスン構成

とびら	○学習の見通しを立てる。
G E T	○基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ○ターゲットの文のしくみを理解し、繰り返し練習する。
U S E R e a d	○G E Tで身に付けた知識を活用して、長文を「読む」力を育てる。 ○ジャンルやテキストタイプを意識して、さまざまな文章を読む。
U S E W r i t e	○スマールステップで「書く」力を育てる。 ○文章の構造、書く手順、書くコツが身に付く。
U S E S p e a k <small>発表</small>	○スマールステップで発表形式の話す力を育てる。 ○スピーチやプレゼンテーションなどの活動をする。
U S E S p e a k <small>会話</small>	○スマールステップで、「やりとり」形式の話す力を育てる。 ○3年間を通して、ことばの機能にフォーカスして活動する。
文法のまとめ	○その課で学んだ文法を振り返る。
R e v i e w	○レッスン、学年を超えて、関連する文法事項を横断的に整理する。
L e t ' s L i s t e n	○現実の場面での聞きとりで、実践的な聞く力を育てる。
L e t ' s T a l k	○身近な場面や機能の表現を会話の中で習得し、話す力を育てる。
P r o j e c t	○学年に3回、学んだことの集大成としての表現活動を行う。 ○複数の技能を統合的に駆使して、課題に取り組む。

9. CAN-DO の効果的な利用法

- ①《自己評価》 ○CAN-DO を見て、自分のできることを確認し、今までやってきたこと、これからやることの見通しをつける。
- ②《目標把握》 ○CAN-DO を見て、文法や単語を学ぶだけでなく、それを身につけたら何ができるのか、というゴールを明確に知る。
- ③《技能把握》 ○CAN-DO を見て「聞く」「読む」「やりとりする」「発表する」「書く」の5技能の中で自分の欠けている技能、つけたい力をしっかりと知る。

※「CAN-DO リスト」で、自分の英語力をセルフチェックさせる。

※学ぶスキルを「見える化」。自律的学習者を育てる。